

## 2. 事例を通して考えてみる ～ 生活科を中心としたスタートカリキュラム～

「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開(令和3年2月)」3章2. 事例6概要(一部修正)

A小学校では、幼児期の教育の学びを踏まえ、より深い学びを実現していくための指導計画を作成しようとし、入学当初、学校や子供の実態に応じて指導の工夫や指導計画の作成を行うために、生活科を中心としたスタートカリキュラム「がっこう だいすき」を構想した。

幼児期から児童期にかけて自分との関わりを通して、総合的に学ぶ子供の発達の特徴を踏まえ、次の2つの視点からスタートカリキュラムを構想した。

- ・生活科「がっこうたんけん」を中心に他教科等のねらいを考えて、合科的・関連的な指導の工夫をする。
- ・直接体験を通して、生活上必要な習慣や技能等を身に付けられるようにする。

園との円滑な接続のため、合同保育参観を行った後、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、子供の成長の姿や先生の働き掛けの意図について共有を図った。園の先生からは園の生活について、登園したら主体的に自分のしたい活動に取り組み、道具や材料を自由に使えるように用意していること、先生がいなくても幼児同士で教え合いながら作ったり遊んだりする育ちの姿があることが紹介された。

A小学校では、園との意見交換を踏まえて入学してくる子供の様子を想定し、スタートカリキュラムのねらいを設定した。また、編成の基本姿勢を確認して週案を作成した。

### <スタートカリキュラムのねらい>

- ・幼児期の生活に近い活動や環境の工夫、人と関わる活動を位置付け、安心感をもてるようにすること
- ・安心して自分の力を発揮し、成長への意欲を高めること
- ・自分で考え、判断し行動することを繰り返し、主体的な学習者として育っていくこと
- ・全ての教職員が子供たちと関わりをもつために、学校全体の取組として考えること

### <スタートカリキュラム編成の基本姿勢>

- ①一人一人の子供の成長の姿から編成する
- ②子供の発達を踏まえ、時間割や学習活動を工夫する
- ③安心して自ら学びを広げる学習環境を整える
- ④生活科を中心に合科的・関連的な指導の充実を図る

## 2. 事例を通して考えてみる ～ 生活科を中心としたスタートカリキュラム～

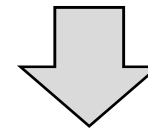
「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開(令和3年2月)」3章2. 事例6概要(一部修正)

### 第2週の週案「はじめまして学校～自分でできるようになろう～」

	16日(月)	17日(火)	18日(水)	19日(木)	20日(金)
8:30 朝の活動	幼稚園で親しんだ絵本や手遊び歌	登校したら荷物の整理・トイレ、席についてお絵かき・読書			教室の後ろに低いテーブルを置き、自由に活動
8:50 1時間目	【国・生】 はじめて書く自分の名前	【音・生】 歌を歌ってなかよくなるろう	【生】 学校たんけん② もう一度たんけん	【生】 学校たんけん③ もう一度行って見たい場所はどこかな	【音】 歌でなかよし 校歌
9:35 2時間目	どうぞよろしく じこしようかい	モジュールにわかる	【生・算】 校庭たんけん 遊具の使い方 10までの数	【図】 いろいろなかたちを作ってみよう	
9:40 10:25	探検に行く順に並ぼう 学校たんけん①	【体・算】 体操服に着替えよう じゅんばん	【生・算】 校庭たんけん 遊具の使い方 10までの数	【図】 いろいろなかたちを作ってみよう	
10:45 3時間目	学校にはどんなところがあるのかな	【生・図】 みなさん よろしく	《合科的な指導》 	【体】 ならびっこ 遊具で遊ぼう	【算】 数と数字
11:30 4時間目			【算】 数えて遊ぼう	【学】 皆で給食の準備をしよう	【国】 えんぴつを持って書いてみよう
給食	楽しい給食				
清掃	自分の場所をきれいにしよう				
14:05 5時間目	よろしくね 名刺交換		【音】 手と手であいさつ ちようちよう	【算】 なかまをつくろう	参観授業 【国】 えんぴつを持って書いてみよう

【週案を作成する際に意識して取り入れたこと】

- 朝の時間「なかよしタイム」で園で親しんだ手遊び歌、読み聞かせ
- 好きな材料で自由に絵を描いたり、製作ができる低いテーブル
- 複数の教科等を組み合わせて展開する合科的・関連的な指導
- 新しい友達と交流ができる学習活動（グループ活動、名刺交換）
- ゆったりとした時間の中で学習活動が進められる2時間続きの学習活動
- 10～15分程度の短い時間を弾力的に活用した時間割（モジュール）



💡 具体の実践と記録を見てみましょう

## 2. 事例を通して考えてみる ～ 生活科を中心としたスタートカリキュラム～

「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開(令和3年2月)」3章2. 事例6概要(一部修正)

「もっと、見たい、知りたい、調べたい」～幼児期に育まれた好奇心、探究心を生かして～

園では、自然散策をしながら見付けた木の実を観察したり、図鑑で調べたりする活動を体験しており、関心のあることについてより詳しく知りたいと考え遊ぶ幼児の姿が見られていた。また、きれいな虹や雲の変化を発見すると、友達や先生に伝えたり、絵をかいたりして、好奇心や探究心をもって考えたことをその幼児なりの言葉や絵で表現する姿が見られていた。小学校では、幼児期に育まれた好奇心や探究心を生かし、入学当初の児童が感じている不思議や驚きを大切にして「がっこうたんけん」をスタートした。

### 【スタートカリキュラム「がっこうたんけん」の実践における記録と考察】

#### ●第3週（4月27日） ー学校のいろんなところを探検したよー

学校探検により、「図書室で本の修理をしていた」「給食のいいにおいがした」と気付いたことを発表した。先生は児童の発言を黒板に書きながら、もっと知りたい、調べてみたいという好奇心、探究心を引き出していった。児童の思いを付箋に書いて学校探検の地図に貼り付け、児童の思いや願いの解決に向けた2回目の探検を行うことにした。

#### ●第5週（5月8日） ーもっと探検して分かったことを発表しようー

前回の探検で本の修理をしていた図書室の先生に「図書室でどんな仕事をしているのですか?」とインタビューした児童の発言から、分からないことは人に尋ねて教えてもらうといいことに気付いた。校長室を調べに行った児童は、校長室のメダルは何のメダルなのかという疑問をもち、校長先生にインタビューすることになった。校長先生は「このメダルは小学校のお兄さん、お姉さんたちがもらったんだよ」と上級生の活躍の話をしてくれ、上級生の存在にも気付き、親しみとともに憧れをもったようだ。不思議に感じたことを解決した児童たち。人とつながっていくことで、「わたしも頑張りたい」と学校生活への夢や希望をもち、意欲をもって生活するようになる姿が期待できる。

## 2. 事例を通して考えてみる ～ 生活科を中心としたスタートカリキュラム～

「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開(令和3年2月)」3章2. 事例6概要(一部修正)

### ●第10週以降(6月12日) —自分たちの安全を守ってくれる人たち—

ある児童は交通指導員のSさんについて、「いつも挨拶してくれる」「横断歩道で渡ってもいいよと教えてくれるよ」と、Sさんから声を掛けられて嬉しかった体験を発表した。その挨拶や言葉に込められている思いに触れ、通学路で安全を守ってくれていることに気付き、お礼をしようと考えた。先生がどうしたらお礼ができるか問い掛けると、児童から「ありがとうと言いに行こう」「お手紙を書いたらいい」と具体的な活動を伝え合った。そして、Sさんを学校に招き、お礼の手紙と折り紙で作ったプレゼントを渡した。Sさんは交通指導員の仕事や役割について話し、「皆が元気に挨拶し、安全に学校に通ってくることが嬉しい」と語ってくれた。児童にとって交通指導員は直接関わりがあり、親しみをもつ存在。交通指導員の仕事や役割、自分との関わりに気付くだけでなく、安全な学校生活のためにいてくれることの意味を見いだした。自分が体験したことや調べたことを他者と伝え合い交流する中で、一人一人の気付きを共有し、学級全体で高めていくことができた。

この事例を通して、次のようなことが分かった。

- 児童は小学校に入学し、具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えることで、新たな思いや願い、疑問などが生まれる。それを一つ一つ取り組んだり解決したりすることで、施設の様子や学校生活を支えている人々や友達などに気付く。そして、自分たちは様々な人や場所と関わり、支えられていることを実感することで安心感をもつ。
- 園でも行っている、気付いたことを伝え自分なりに表現し友達と振り返る場の設定により、曖昧だった気付きが確かなものになっていった。園での経験を踏まえ、体験と表現を繰り返すことで、気付きの質を高め、学びを深めていると言える。
- 今後も園での幼児の姿、学校での児童の姿から、それぞれの学びを園と学校の先生が共有し、スタートカリキュラムを編成・実践しながら、1年生の様子を授業参観等で把握したり、先生同士が意見交換したりすることで、スタートカリキュラムの評価・改善につなげていくことが期待される。

## 2. 事例を通して考えてみる ～生活科 アサガオ栽培～

「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開(令和3年2月)」3章2. 事例7概要(一部修正)

児童たちがこれまでの経験を想起しながら安心して意欲的に活動できるようにし、1年生の学習をゼロからのスタートとせず、アサガオやそれを使った遊びについて、同じことの繰り返しではなく学びの質を高めていくように工夫した。

児童は、園や家庭において色とりどりのアサガオの花を見たり育てたりする経験を通して、アサガオは種から育つこと、育つとつるが出て巻き付きながら伸びることなどに気付いたり、友達や先生に伝えたりしている。また、植物が育つためには世話が必要なことも漠然と理解し、友達と一緒に水やりなどをした経験をもつ児童もいる。アサガオの成長に関心をもち、生命の尊さに気付き、いたわったり大切にしたりしてきている。

### 【生活科 アサガオ栽培における指導のポイント】

例えば、

- ・単元を構想するに当たり、通っていた園等や家庭から、植物の栽培やそれを生かした遊び、製作などに関する情報を収集し、**幼児期の経験や学びを栽培活動につなげられるよう工夫した。**(★例1)
- ・自分のアサガオを一人一鉢で栽培することを基本とした。**学習の環境は「環境を通して行う教育」を基本とする幼児教育を参考とし**(★例2)、例えば、アサガオの鉢は、日常的に関われるよう玄関や教室の前に置いたり、遊びや製作の際には、材料や道具の種類や量、配置に配慮した。また、入学間もない時期であることから、**特に一人一人の取組の違いに十分配慮した**(★例3)。
- ・児童の実態を把握した上で単元を構想し、児童の興味や関心が高まるような導入にしたいと考え、学習計画を児童たちと一緒に立てることで、**単元全体の見通しをもって学習を進められるようにした**(★例4)。
- ・「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」を参考にしながら、児童が**学習対象と主体的に関わりながら活動できるよう工夫した**(★例5)。
- ・伝え合い交流する場を意図的・計画的に設定することで、児童の**気付きの質を高めることにもつなげていこうと考えた。**(★例6)
- ・表現しやすいように観察カードを工夫したり、生活科の時間以外にも児童同士で情報交換できる機会をつくったりした。観察の際には、見るだけでなく、嗅いだり触ったりするなど、**諸感覚を働かせることを促し、比べたり、見付けたりなど、多様な学習活動となるようにした**(★例7)。
- ・観察で気付いた事実にとどまらず、**自分の気持ちと結び付けて表現できることも大切**(★例8)。
- ・振り返り表現する活動を通して、アサガオの世話をして成長を見守った自分自身の成長や自信につなげたいと考えた。

## 2. 事例を通して考えてみる ～生活科 アサガオ栽培～

「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開(令和3年2月)」3章2. 事例7概要(一部修正)

### 【単元の目標】

アサガオを育てる活動を通して、その変化や成長の様子に関心をもって働き掛けることができ、アサガオが成長していることに気付くとともに、親しみをもち大切にしようとする。

### ①「アサガオの種をまこう」(本時1/18)

◆本時の目標：アサガオについてこれまでの経験や知っていることを伝え合うことを通して、種を観察したり自分がまく種を選んだりして、アサガオを育てることへの意欲や、経験を基にきれいな花を咲かせることへの期待をもつことができるようにする。

主な活動	指導上の留意点
<p>○アサガオの写真を見て、これまでの経験を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「園にたくさん咲いていた」</li> <li>・「先生と一緒に水やりしたよ」</li> <li>・「色水つくって遊んだよ」</li> <li>・「最後にいっぱい種ができた」</li> </ul>	<p>○興味や関心には個人差があるので、多くの児童が意欲的に取り組めるよう、これまでの経験を問い掛けるだけでなく、学習環境も工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アサガオの写真をしっかり見ることができるよう、児童を教室の前に集め、目の高さで提示する。</li> <li>・つぶやきも拾い、できるだけ多くの意見を取り上げる。</li> <li>・個々の経験は違っても、それぞれがアサガオについて想起できている姿を認める。</li> </ul>
<p>○アサガオを育てる中で、やってみたいことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「きれいな花をたくさん咲かせたい」</li> <li>・「水を毎日やるのが大切だよ」</li> <li>・「花が咲いたら、色水遊びをしたいな」</li> </ul>	<p>○園などでは、植物を栽培する際にどうしていたか問い掛け、経験を取り上げていくことで「これまでの経験が小学校でも使える」という自信をもてるようにする。(★例1)</p> <p>○児童の意見から、「めあて」や「学習計画」を設定し、見通しをもてるようにすることで、主体的な学びの実現につなげる。(★例5)</p>
<p>○本時を振り返り、気付いたことや楽しみなことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大きくなるようにたくさん水をやるぞ」</li> <li>・「何色の花が咲くのか楽しみ」</li> </ul>	<p>○栽培への意欲に結び付けるようにする。</p>

## 2. 事例を通して考えてみる ～生活科 アサガオ栽培～

「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開(令和3年2月)」3章2. 事例7概要(一部修正)

### ②「アサガオの芽を観察しよう」(本時5/18)

◆本時の目標：芽を出したアサガオの様子を観察してカード等に記録し、それを基に交流することを通して、各自の発見したことや楽しみなことを友達に伝えることができるようにする。

主な活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○アサガオの芽が出た様子を観察する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「同じ葉っぱが2つある」</li> <li>・「〇〇さんのは、大きい葉っぱがあるね。形も違うみたい」</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のアサガオだけでなく、友達のアサガオも見て比べよう促す。(★例7)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○観察カード等を基に、自分のアサガオについて紹介する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「種が葉の上ののっけていて重そう。早くとれるといいな」</li> <li>・「〇〇くんは、葉っぱがたくさんあってすごいな」</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のアサガオをしっかりと発表できていることを認める。</li> <li>○友達の発表を聞くときには、自分と比べて聞くようにすることで、気付きの質を高めるようにする。(★例6)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時を振り返って次時につなげる。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇〇さんみたいに大きくなるように、毎日水をやろう」</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アサガオの成長を楽しみにし、世話をしていこうという気持ちをもてるようにする。</li> </ul>

### ③「アサガオの世話の仕方を考えよう」(本時6/18)

◆本時の目標：アサガオの支柱を立てることを通して、大きくなったアサガオの世話の仕方を考え、それに合った世話ができるようになるとともに、大切にアサガオの世話をすることができるようにする。

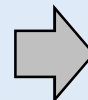
主な活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○大きくなったアサガオについて、感じていることを伝える。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「くねくね伸びて、〇〇さんのとくっついちゃった」</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○成長の早いアサガオのつるが伸び始めた頃がよい。伸びたつるが絡まり困っていることを引き出せるようにする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時を振り返って、次時につなげる。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「明日はつるがどうなっているかな」</li> <li>・「これで安心、どんどん大きくなってね」</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アサガオの成長をますます楽しみに感じながら、世話を続けていけるようにする。(★例8)</li> </ul>

## 2. 事例を通して考えてみる ～生活科 アサガオ栽培～

「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開(令和3年2月)」3章2. 事例7概要(一部修正)

新たな気付きとなり、気付きの質が高まっていく(気付きの変容)

- ◎無自覚だった気付き
- ◎個々の気付き



- ◎自覚化された気付き
- ◎他の気付きと関連付けられた気付き

### ④「アサガオのひみつを見付けよう」(本時8/18)

◆本時の目標:花が咲いたアサガオを観察することを通して、成長の様子を見付けたり比べたりたえたりして、植物の成長のおもしろさや不思議さに気付くとともに、これからの成長を楽しみにして育てることができるようにする。

主な活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○花が咲いたアサガオを見て、気付いたことを出し合う。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「きれいな花がいっぱい咲いている」</li> <li>・「水やりを頑張ったから、葉っぱも元気だよ」</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自由に気付いたことを言い合える雰囲気をつくり、花だけでなく他のところについての意見も積極的に取り上げていく。</li> <li>○これまでに各自が世話をしてきた頑張りを認めるようにする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のアサガオを観察し、見付けたことをカードに記録する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「本当だ！虫眼鏡を花から離したら大きくなった」</li> <li>・「つぼみって、何だかねじれているみたい」</li> <li>・「〇〇くんの花は、私と同じピンクだけど色が濃いね」</li> <li>・「今日初めて花が咲いたんだ」、「嬉しいな」</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○細部まで観察するよう虫眼鏡を準備しておく(★例4)。使用の際には扱い方にも留意する。</li> <li>○見付けることの観点として、次のことが考えられる。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・花(含つぼみ)、葉、つる</li> <li>・色、数、大きさ、形・見る、嗅ぐ、触る</li> </ul> </li> <li>○これまでの自分のカードと比べてみることも観点の一つとして提示してもよい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○見付けたことについて、発表し合う。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「葉っぱは、全部で〇枚、大きいのは手より大きい」</li> <li>・「私のつるも友達のつるも同じ向きに巻き付いていた」</li> <li>・「葉っぱに毛がはえていて、ざらざらする。ひげみたい」</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○具体的な数や比較を用いて伝わりやすい表現を取り上げる。</li> <li>○全体として確認したいことは、一人一人が観察できる時間をもつようにする。</li> <li>○児童の気付きを黒板に書きながらまとめ、共有を図る。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○これからもアサガオの成長を楽しみにし育てようとしている。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「全部でいくつ咲くのかな」、「数えてみよう」</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各家庭でもアサガオの成長を楽しみにしていけるように観察カードを工夫する。</li> </ul>



## 2. 事例を通して考えてみる ～生活科 アサガオ栽培～

「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開(令和3年2月)」3章2. 事例7概要(一部修正)

### ⑤「アサガオの花や葉っぱで遊ぼう」(本時11/18)

◆本時の目標：アサガオの花や葉っぱを使ってできることを出し合い、それらの遊びを楽しむことを通して、アサガオへの愛着をもち、これからも大切にしようとする気持ちをもつことができるようにする。

主な活動	指導上の留意点
○たくさんの花や葉を使い、どんな遊びができるか話し合う。 ・押し花、たたき染め、色水づくり	○これまでの経験を基に、できる遊びや、それに必要な材料や用具を考えられるようにする。(★例3)
○それぞれが自分のアサガオでしたい遊びをする。 〈押し花コーナー〉 ・「園のときは花で作ったから、今度は葉っぱも一緒に入れたいな」、「どれくらいで押し花になるかな」	○それぞれの遊びができるような環境を設定する。 ・押し花コーナー・たたき染めコーナー・色水コーナー ○材料や用具の種類や量、配置に配慮する。(★例2)

### ⑥「すてきな記念品を作ろう」(本時14/18)

◆本時の目標：記念品を作るのに必要な準備を話し合うことを通して、種を取った後のアサガオのツルを生かたリース作りを思い浮かべながら、アサガオを育てた気持ちも大切にしようとするようにする。

主な活動	指導上の留意点
○種を取った後のアサガオをどうするか話し合う。 ・「園のとき、サツマイモのリースを作ったよ」 ・「アサガオでもできるかもしれない」、「つくりたいな」	○茎(つる)を使って作った経験を想起できるようにする。 ○児童のアサガオを大切にしたいという気持ちは受け止め、実現できることという観点で作る記念品を決めていく。
○必要なものを話し合う。 ・「つるを丸くしているよ」、「飾りが違うと全然違うね」 ・ひも、針金、松ぼっくり、ビーズ、木工用接着剤等	○見本を提示する。作り方は児童が考えられるようにする。 児童の意見から作り方を整理し、材料の準備につなげ、リース作りの見通しを持てるようにする。

この事例を通して、次のようなことが分かった。

○生活科では、対象に直接働き掛けたり、気付いたことを表現したりする具体的な活動や体験を繰り返し、対象との関わりを深めながら気付きの質を高めていくことを目指している。「気付きの質が高まる」とは、無自覚だった気付きが自覚化されること、個々の気付きの共有からそれぞれが関連付けられ新たな気付きになること、対象のみならず自分自身への気付きになることなど、気付きが変容していくことである。

○小学校においても、先生は児童の気付きに共感したり、疑問に児童が答えを探せるよう環境を整えたりすることが大切。

○児童たちが「園でもやったことがある」と安心したり関心をもったりして学習に取り組むことや、対象に繰り返し関わり気付きの質を高めたりするためには、幼児期に豊かな体験を積み重ねることが大切。例えば、自然との触れ合いで、幼児期には、まず幼児がゆったりと自然に向き合える時間を確保し、十分な経験を保障することが必要不可欠。また、先生自らが自然の変化に気付き、幼児と共に感動したり、命を大切にしたりする姿勢をもつことが重要。